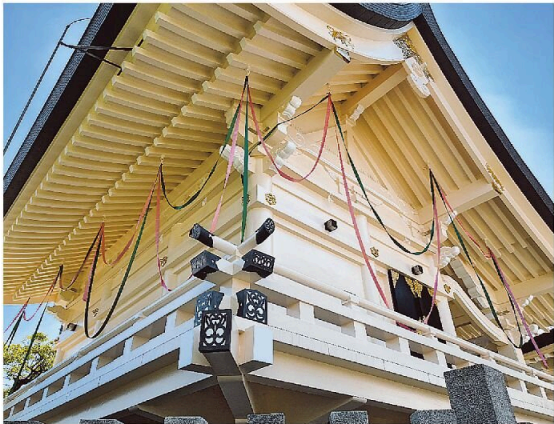


### ③ アブラハム・クルズヴィエイガス (岡山神社)

岡山神社（岡山市北区石関町）は860年創建の歴史ある神社であり、現在の社殿は昭和の岡山空襲のあと再建されたものである。アブラハム・クルズヴィエイガスさんの「紙の道」はそのクリーム色の美しい社殿に、ピンクと緑の細長い紙をつり下げたアート。風に吹かれ、神社建築の複雑な部材や装飾に絡みつき、その時々で形を変える。いつ見ても、誰が見ても、同じものを二度と見ることはで



「紙の道」は神の道？ 2色の紙が風に揺れ社殿を優しく飾る

## 歴史との共生を実感

きない。

神社は神の空間であり、神聖な場所である。気軽に触れてはならないものであり、後世に伝えていくべき文化財でもある。しかしながら、歴史を振り返ってみると、どんな宗教建築、歴史的建造物であっても、あらゆる方法で更新（修理、修復、改修、改築、増築…）され続けてきた。

このアートは、歴史ある神社の静謐な空間が長い年月の

あいだで、今この瞬間の自分しか知らない神社の生を切り取っている。わたしたちが、歴史や文化と共に生きていることを実感させてくれる。「2色の細い紙をつるしただけ」ともいえる作品であるが、それをどこに展示するのかという点、つまり作品が置かれる空間や環境によって、どれほど見え方が違ってくるのかを教えてください。

（岡山県立大デザイン学部 4年・山川千尋）

岡山市中心部で開催中の現代アート展「岡山芸術交流2022」（市、県などで行う実行委主催）は27日まで、21日休み。

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。